西新井宿第一町会 住環境新聞

第３号
2004.12.3 発行
≪製作者≫
西新井宿第一町会
芝浦工業大学三浦研究室
４年　飯間正照
４年　高野利永

騒音実測調査

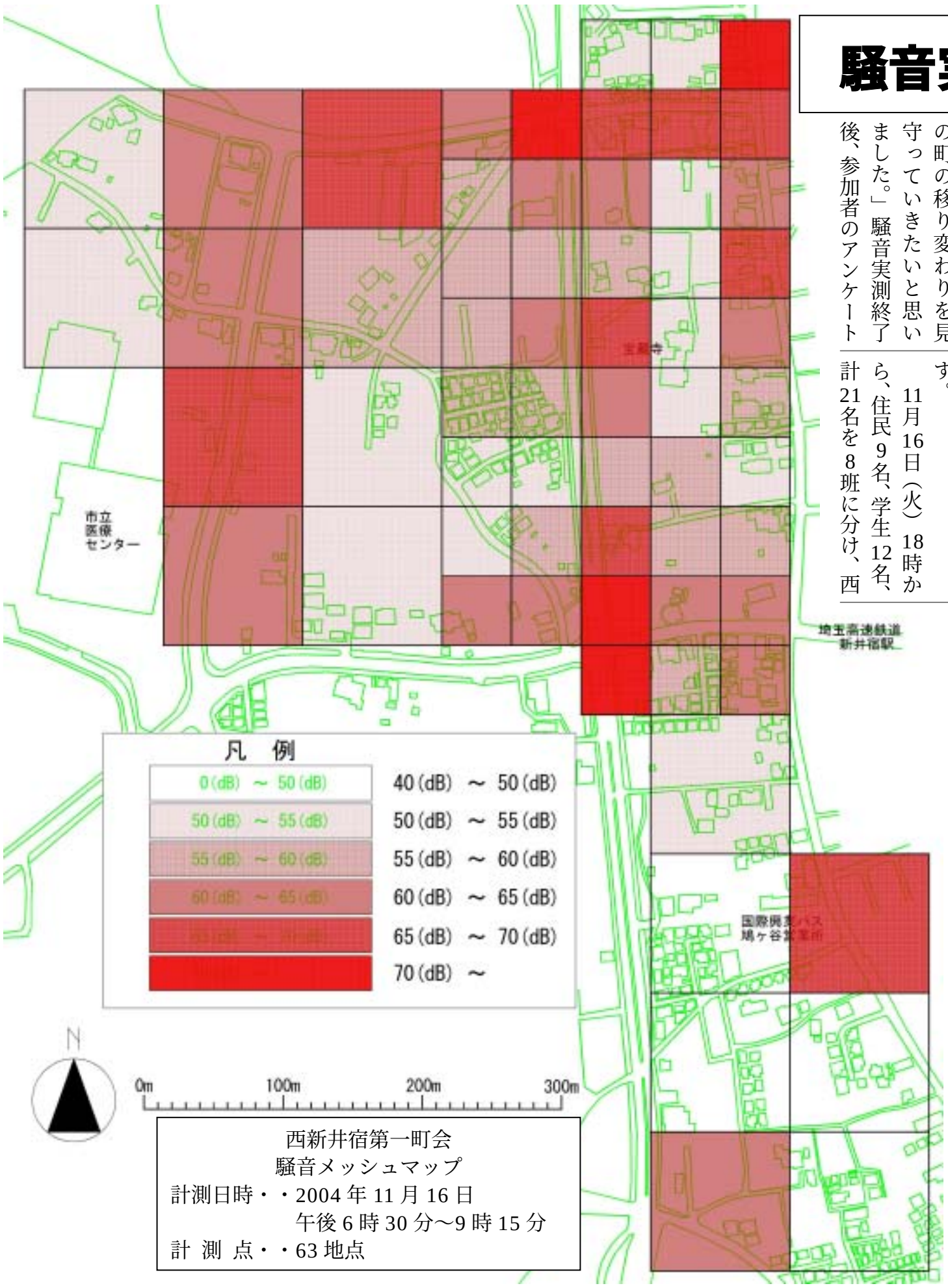
「この町の移り変わりを見守りたい」

騒音実測調査無事終了

「実測調査に参加して、住環境の面から、この町の移り変わりを見守っていきたいと思いました。」騒音実測終了後、参加者のアンケートの自由記入欄に書かれていたコメントのひとつです。

11月16日（火）18時から、住民９名、学生12名、計21名を８班に分け、西新井宿の63地点で、15分間の騒音の平均値を測定しました。寒い中、３時間弱も外で実測を行うのは大変なのではないかと心配されましたが、参加した住民は積極的に騒音調査を行いました。

実測結果は、国道や県道での騒音の大きさが目立ちました。特に、122号線の交差点で80 dBを記録した地点もあり、環境基準である70 dB（裏面参照）を超えていることがわかりました。また、国道122号線・県道鳩ヶ谷線沿い以外でも環境基準である55 dBを超えている地点が17地点ありました。



西新井宿第一町会
騒音メッシュマップ
計測日時・・2004 年 11 月 16 日
午後 6 時 30 分～9 時 15 分
計 測 点・・63 地点

11 月 16 日の騒音実測の様子

実測後の住民の感想

・正確を心がけていることに感心した。
・騒音を数値に表すことによって、どのエリアがうるさいかなどがよくわかった。
・実測調査に参加して、住環境の面から、この町の移り変わりを見守っていきたいと思いました。

≪お問い合わせ先≫
芝浦工業大学
システム工学部　環境システム学科　三浦研究室
〒337-8570　埼玉県さいたま市見沼区深作 307
TEL 048(687)5832　FAX 048(687)5199
E-mail　r01052@sic.shibaura-it.ac.jp（高野）
教授：三浦 昌生
担当学生：飯間正照・高野利永
ホームページ http://www.mmlab.se.shibaura-it.ac.jp/

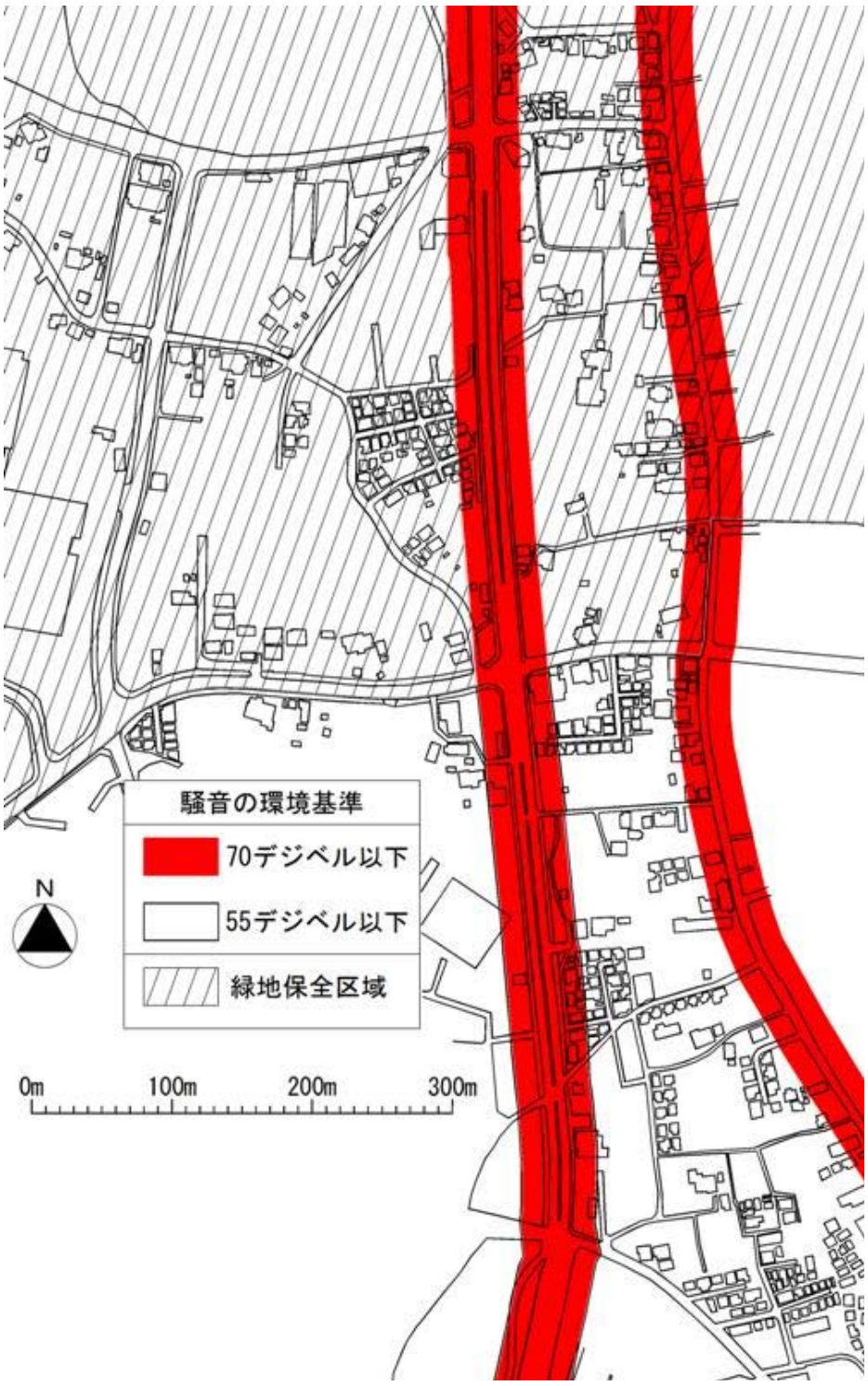
西新井宿を分断する幹線道路

環境基準に15 dB の差有り

環境基準とは、「人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい基準」として定められたものですが、同じ基準をすべての地域に当てはめると、工業用地や幹線道路沿いでは達成できないので、用途地域別、道路の種類によって基準値が定められています。

西新井宿には緑地保全区域・第一種住居地域・準住居地域があり、これらの用途地域では昼間の環境基準は55 dB以下とされていますが、国道122号線沿いと県道鳩ケ谷線の両側15 mの間は70 dB以下となっています。（川口市のホームページ参照）

表の騒音メッシュマップと左の図を見比べると、緑地保全区域の境界を境として上下で特色のある実測結果になっていることがわかります。上半分は色の濃いメッシュが多く、騒音が高いことがわかりますが、下半分は道路に近い計測点を除いて色の薄いメッシュが多く、50 dB以下が多いことがわかります。これは建物の密集率の違いや地形的な問題が関係しているのではないかと推測されます。この点についてはこれから調べていく予定です。



植栽の役割とは？

西新井宿には森林が多く在り、その防音効果を期待していましたが、実測結果を見てみるとそれほど防音効果がはっきりとは表れませんでした。

植栽の働きの一つとして防音効果がありますが、それには高木で20 m以上の幅を持つ林であることが必要です。西新井宿の場合、林が分散しており、その地形も道路より低い場所があったりと、せっかくの緑が活かされていないという印象を受けました。

もっとしっかりした植林計画を立てれば緑を活かした、すばらしい地区になるのではないでしょうか。

実測準備から住民の手で

カプセルづくり

町会との交流深まる

カプセルを袋詰めしている様子

カプセルの説明書を袋詰めしている様子

カプセルの設置方法を説明している様子

11月21日に西新井宿会館に、20人近くの住民の方たちが集まり、二酸化窒素計測のためのカプセルつくりが行われました。研究室側で、ある程度の作業をやっておいたということもありますが、多くの人の協力と手際の良さで、予定の半分以下の時間で西新井宿第一町会全世帯分のカプセルを完成させることができました。

実測当日の作業だけでなく、事前の準備の段階でこれほど多くの方のご参加があるということで、西新井宿第一町会の住民の方の住環境に対する意識の高さが、よく伝わってきました。